



学生に読ませたい本 vol.4

遠藤 史啓

プレップ 法学を学ぶ前に

道垣内弘人『プレップ法学を学ぶ前に』（弘文堂、2010）

法学を体験してみて、馴染めない、理解できないという人、あるいは、そもそも法学を勉強するために必要なことがわからないという問題に直面する人も多いでしょう。その理由として、法学における議論の性格への理解の不足、前提となる基礎知識の不足が、本書1頁でも挙げられています。

スポーツをするにしても、カラオケでうまく歌うにしても、ゲームで難易度の高いプレーをするにしても、そのためのキーポイントとなる点が必ずあるはずですし、ある一定以上のレベルに到達するためには、その前提として、基本的なことを押さえておく必要があります。それは、法学の勉強でも同じであり、ここだけは押さえて欲しい点があります（言い換えると、この点さえ押さえておけば、いくら法学の勉強が面白くなくても、単位取得に困ることはないはず!!）。

本書は、法律を勉強するうえでの、「最初に読む説明書」であるということが出来ます。条文の構造（要件・効果図式）、解釈の意味、法学における事実等、法学を勉強するうえで、必ず身につけなければならないことの説明が丁寧になされており、法学を勉強する前に必ず読むべき本だといえます。法学をしっかりと勉強しようと考えている方は、まずこの一冊からスタートしてみてください。



井田良ほか『法を学ぶ人のための文章作法』（有斐閣、2016）

法学の勉強をしていて、点数がとれないという人も少なくないと思いますし、また、レポート等を頑張って作成し提出したのだけれど、散々な結果だったということもたまにはあるでしょう。これらの原因のひとつとして、法的な文章がうまく書けていない、ということが考えられます。実は、法的な文章を書く作業にも、ルールが存在しており、このルールは、日常の会話やSNS等で用いられる文章とは異なった、法律家が用いる言葉、文章を基準としています。

本書は、このような文章の書き方を、丁寧に教えてくれます。その特徴は、法律学での文章の特徴を踏まえつつ（用語の多義性、法的評価等）、形式的な側面（接続詞や文章の順番等）をしっかりとフォローしていることがまずは挙げられます。これは、法学だけに限られませんが、文章が形式的にしっかりしているだけで、見た目の印象はかなり変わります。さらに、本書では、具体的な文章例が出され、それを赤ペンで修正していくという点も特徴的です。

「法を学ぶとは、法の言葉を学ぶことであり、法律家の文章を理解し、それを書けるようになること」とあるとおり（本書1頁）、本書は、まさに、法的な文章の書き方を教えてくれる適切な一冊です。この本を読んで、「文章を書く基礎体力」（本書2頁）を身につけましょう。（法学部准教授）

編集後記

2017年度は、共同研究や客員研究員の皆さまのご研究の一部をご披露して
いただくコーナーなど、情報交換の場を充実させていきたいと考えております。
どうぞお楽しみに。

法学研究所

所長	井上 匡子	教授
常任委員	柴田 直子	教授
	東郷 佳朗	准教授
	大川 千寿	准教授

地方自治センター

センター長	安達 和志	教授
運営委員	出口 裕明	教授
	三浦 大介	教授
	諸坂 佐利	准教授
	嘉藤 亮	准教授

国際人権センター

センター長	阿部 浩己	教授
運営委員	山崎 公士	教授
	井上 匡子	教授
	柴田 直子	教授
	金子 匡良	教授

発行者：神奈川大学法学研究所 井上 匡子
〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1 TEL 045-481-5661 (代表) FAX 045-413-6141

印刷所 (株)江森印刷所
〒221-0014 横浜市神奈川区入江1-34-25 TEL 045-421-2297